

武蔵野市のごみ問題について

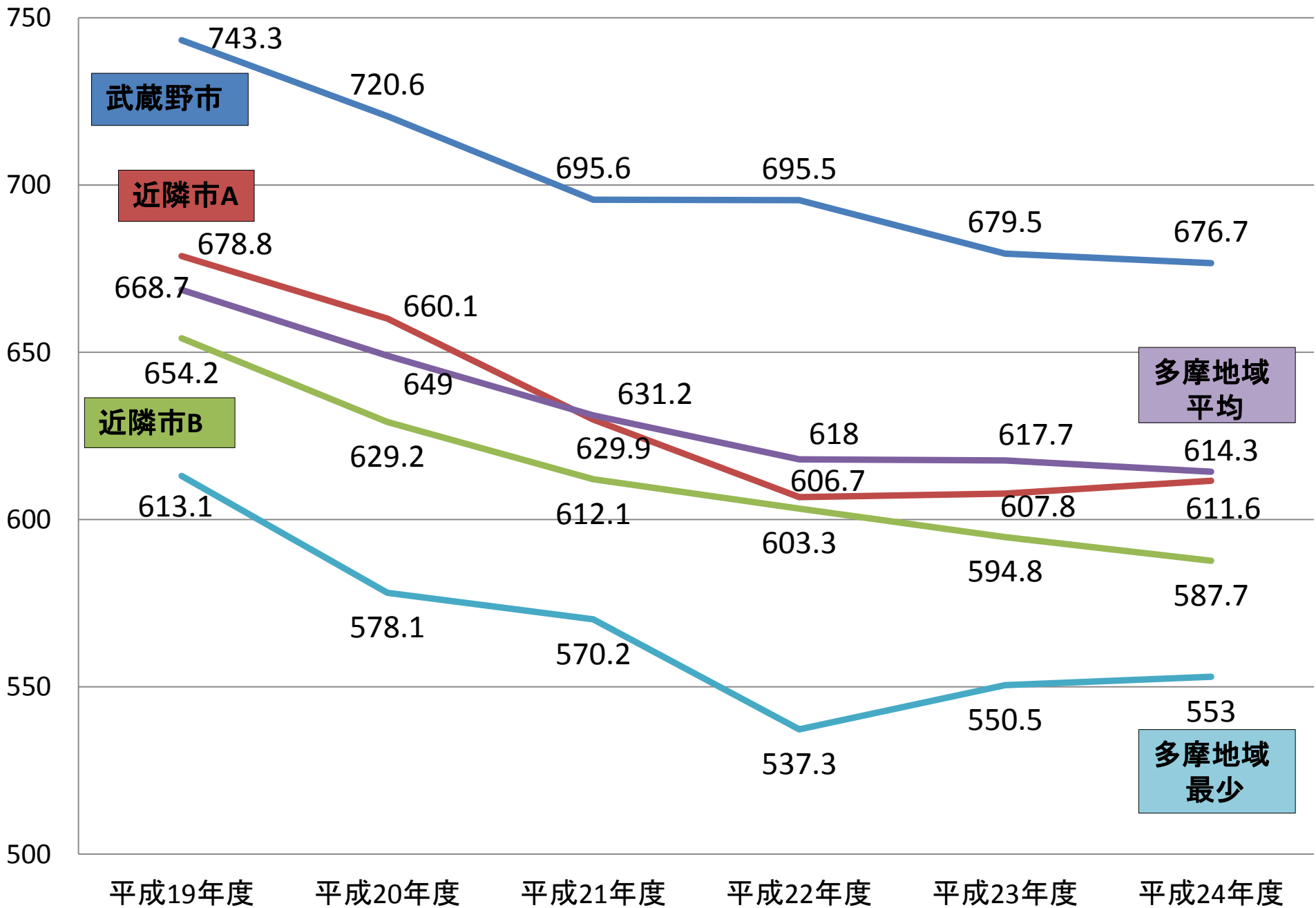
ごみ総合対策課長 大野正雄

■ ごみ問題の略歴 ■

- 昭和23年 市塵芥掃除手数料徴収条例制定
- 昭和24年 市の直営事業として実施
- 昭和30年 武蔵野三鷹地区保健衛生組合設立
- 昭和33年 三鷹市内でごみの焼却を開始
- 昭和46年 ごみ問題発生
- 昭和47年 八幡町二丁目への設置を検討開始
- 昭和50年 八幡町二丁目設置に反対陳情
- 昭和56年 クリーンセンター都市計画決定
- 昭和59年 谷戸沢処分場供用開始。平成10年に埋め立て完了
- 昭和59年 クリーンセンター稼動開始
- 平成10年 ごみの最終処分場として二ツ塚最終処分場(日の出町) 供用開始
(総面積=59・1^{ヘクタール}(東京ドーム13個分)あるが、平成25年度末で44.6%が埋め立てられている。次の処分場の確保は困難)
- 平成16年 家庭ごみの有料化を開始
- 平成18年 エコセメント事業を本格稼動
- 平成20年 新クリーンセンター施設まちづくり検討委員会発足
- 平成25年 事業系ごみ持ち込み手数料を改定
- 平成29年 新クリーンセンター稼動予定



家庭ごみ 市民一人1日あたりのごみ量(g)



■ ごみ量の推移(H23⇒H24実績) ■

◆ 市民一人当たりの排出量で見ると、本市から排出されるごみは、多くの項目で多摩の最多を記録している。

(単位:kg)

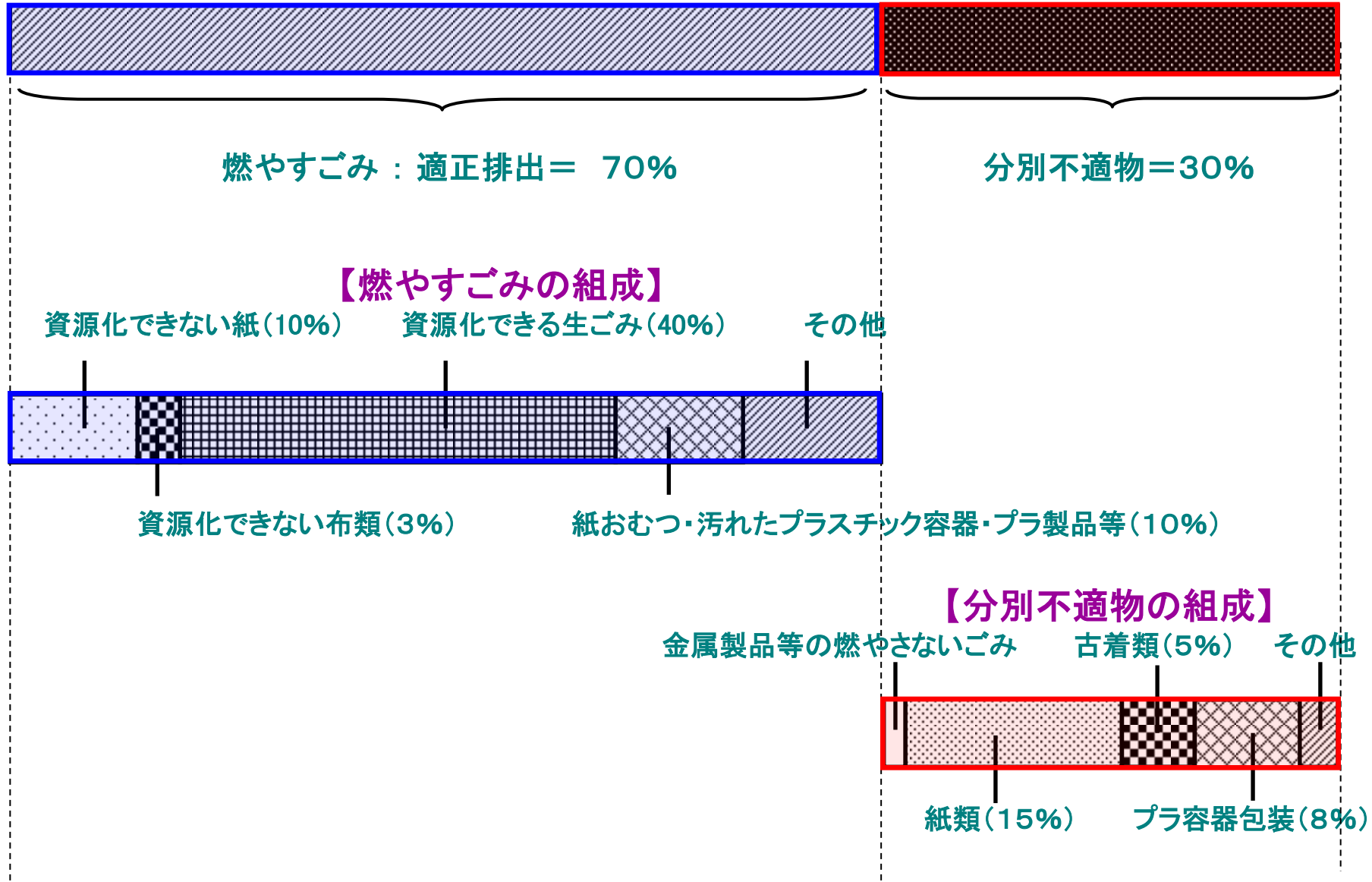
			平成24年度	平成23年度	前年差	前年比	多摩での順位
発生総量			47,335,357	47,690,719	-355,363	-0.7%	-
排出							
総量			43,120,732	43,473,214	-352,482	-0.8%	1位
ごみ	可燃ごみ	市収集	21,063,400	21,136,460	-73,060	-0.3%	12位
		民間搬入	9,493,760	9,731,190	-237,430	-2.4%	1位
	不燃ごみ		1,257,770	1,261,920	-4,150	-0.3%	25位
	粗大ごみ		1,038,540	1,035,600	2,940	0.3%	5位
	有害ごみ		92,910	94,040	-1,130	-1.2%	1位
資源収集		古紙・びん・ペット類	10,174,352	10,214,004	-39,652	-0.4%	3位
排出抑制							
総量			4,214,625	4,217,505	-2,881	-0.1%	-
拠点回収	紙パック・廃食用油		31,000	27,750	3,249	11.7%	-
集団回収	約180団体で実施		3,508,980	3,482,610	26,370	0.8%	-
粗大ごみ再生	シル人での再生		319,935	365,125	-45,190	-12.4%	-
剪定枝	全体		354,710	342,020	12,690	3.7%	-
	うち家庭分		252,550	255,510	-2,960	-1.2%	-

※「市収集」は、市民と「1日の排出量が10kg以下の小規模事業者(約4000件分)」のごみ

※ 網掛け部分＝家庭系ごみ＝一人1日あたりのごみ量に換算する際の対象

■ 可燃ごみの内訳 (平成24年度) ■

◆ 残念ながら可燃ごみのうち3割は正しく分別されていない。



■ ごみ？ 資源？ ■

- ◆ 武蔵野市のごみ出しルールは細かいと言われることもあるが...
- ⇒ ごみとして処分するものと、資源としてリサイクル・リユースするものを選別する必要がある。
- ⇒ 焼却処分するものを最小限にする必要がある。

平成 23 年 3 月現在

武蔵野市 ごみ・資源 収集日一覧表

朝 9 時まで指定の場所に出して下さい。

「燃やすごみ」「燃やさないごみ」は市指定有料ごみ処理袋で出して下さい。
祝日も曜日通りの収集を行ないます。年末年始の収集は市報をごらん下さい。

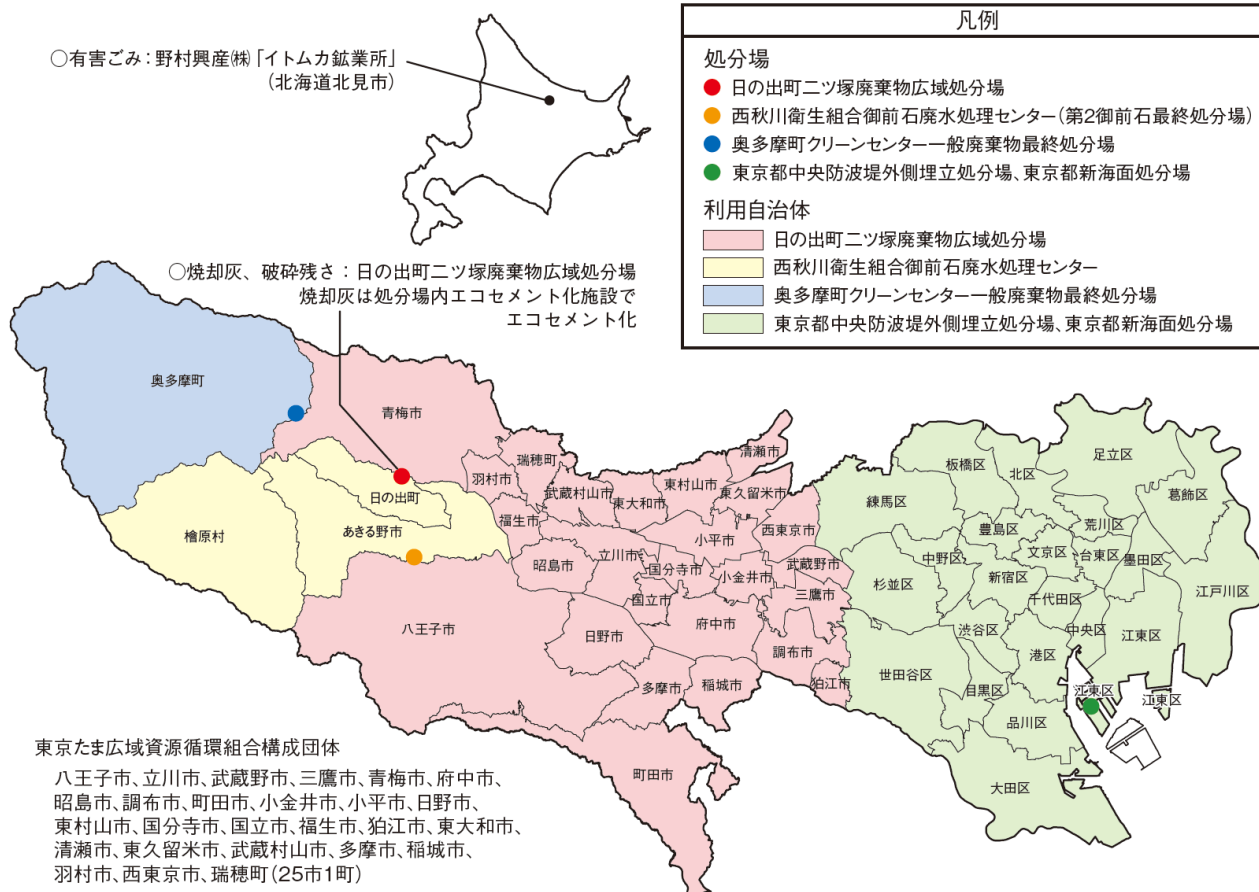
地区によって収集日異なります。お住まいの地区の収集日を書き込んでください。 武蔵野市環境生活部ごみ総合対策課 電話：0422-60-1802（直通・日本語のみ）

● ● 曜日	第 / ● ● 曜日	● 曜日	● 曜日
燃やすごみの日	月 2 回 燃やさないごみの日	ペットボトル、その他 プラスチック容器包装	びん、缶、古紙、古着 有害ごみ
武蔵野市指定有料ごみ処理袋で出してください	武蔵野市指定有料ごみ処理袋で出してください	透明・半透明の袋で出してください（無料）	透明・半透明の袋で出してください（無料）
 <p style="text-align: center; border: 1px solid red; padding: 5px;">容器包装ではないプラスチック製品</p>  <p style="font-size: x-small;">以下のものは無料で収集します。 *長さ 50cm 以内、太さ 7cm 以内、重さの高さ 50cm 以内の杉木・落葉は 1 回につき 3 束（袋）以内 *紙おむつ、布おむつは汚物をトイレに流して、透明の袋に入れて下さい。 *枝木・落葉が 4 束（袋）以上の場合、予約制による収集あり。</p>	 <p style="font-size: x-small;">注意 *金製（バット、ゴルフクラブ、かざりなどは半分以上入る大きさの市指定有料ごみ処理袋に入れ、必ず口を結んで、出して下さい。)</p>	<p style="text-align: center;">ペットボトル</p>  <p style="font-size: x-small;">このマークが自印 PET ペットボトルはフタとラベルをはずし、軽く洗ってつぶしてください。 ふたとラベルは「その他プラスチック容器」へ</p> <p style="text-align: center;">その他プラスチック容器包装</p>  <p style="font-size: x-small;">このマークが自印 *マークがなくとも対象となるもの（果物用のネット、発泡スチロールなど）</p>	<p style="font-size: x-small;">資源はそれぞれ別の透明の袋に入れて出してください。</p>  <p style="font-size: x-small;">資源はそれぞれ別の透明の袋に入れて出してください。 びん・缶は軽くつぶす 古着 着られるもの（下着類、着られないものは燃やすごみへ） 化粧びんも OK</p> <p style="text-align: center;">それぞれひとりでしぼって出してください。</p>  <p style="text-align: center;">有害ごみ</p> <p style="font-size: x-small;">別々に分けて有害ごみ袋か透明袋に「有害ごみ」と明記して出して下さい。</p>  <p style="font-size: x-small;">ガスボンベ・スプレー缶 ライター 乾電池 体温計 蛍光管（ケースに入れて）</p>

■ 最終処分場問題 ■

◆ ごみが最終的に行き着く先は？

- ⇒ 日の出町や北海道などに最終処分を依存している現状
- ⇒ 最終処分場の確保は、ごみにおける最大の課題のひとつ
- ⇒ 東京湾に埋められる23区と多摩では状況が異なる



■ 最終処分場(日の出町 ニツ塚)の状況 ■

◆ 今後どの程度の期間使用できるか？

⇒ 平成10年に供用開始し、平成26年2月の時点で埋め立て区域全体の44.6%が埋め立てられている。(全体埋立容量約370万立方メートル)



■ 最終処分場（日の出町 ニツ塚）の状況 ■

◆ この処分場が満杯になったら？

⇒ 他に最終処分場を確保できる見込みは全くない。

⇒ 最終処分場が無いとごみの処分は不可能

エコセメント化施設
平成18年5月完成



平成15年10月3日撮影

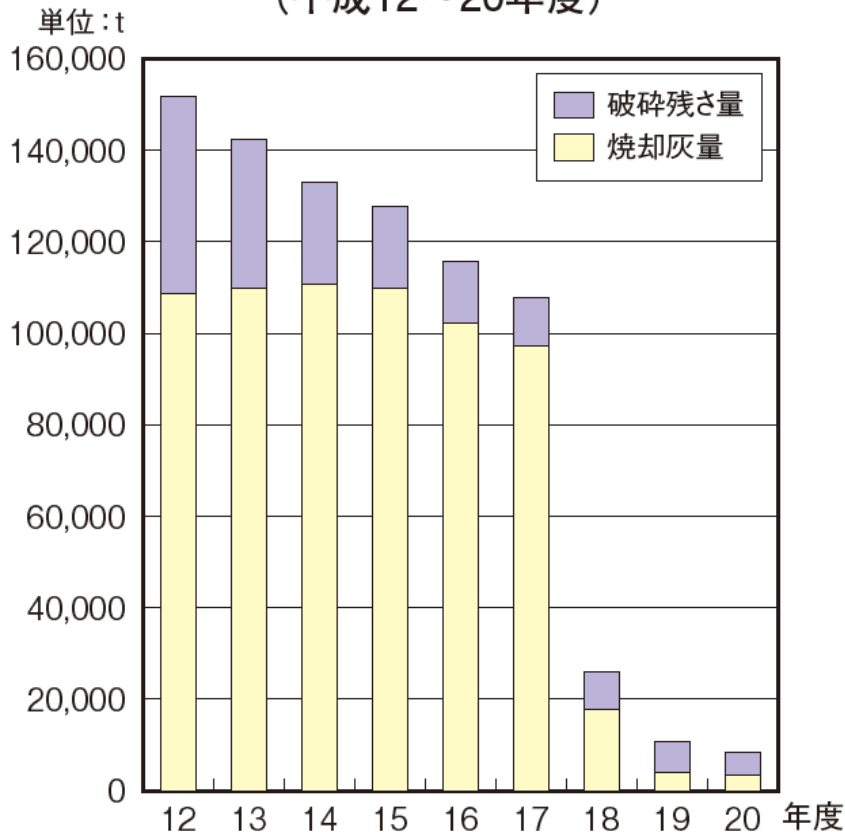


平成18年12月7日撮影

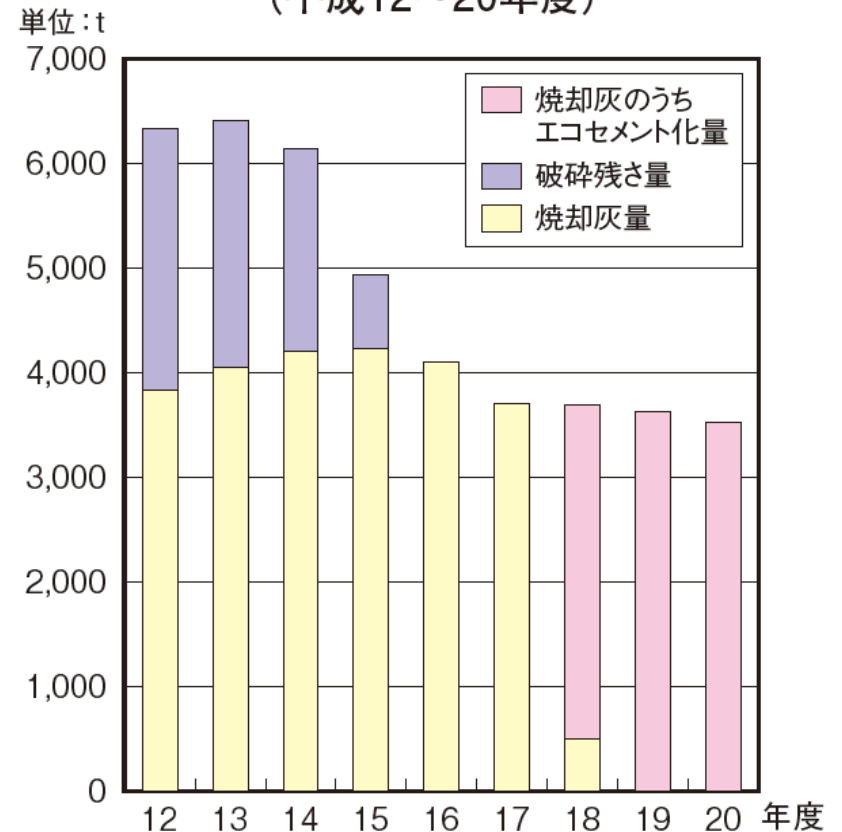
■ 処分場への搬入量等の推移 ■

- ◆ 処分場を長く使用するには埋め立て量を減らす必要がある
⇒ エコセメント事業により、現在、武蔵野市からのごみは、まったく埋め立てられていない。

二ツ塚最終処分場の埋立量推移(25市1町)
(平成12~20年度)



武蔵野市からの搬入量推移
(平成12~20年度)



■ エコセメント事業 ■

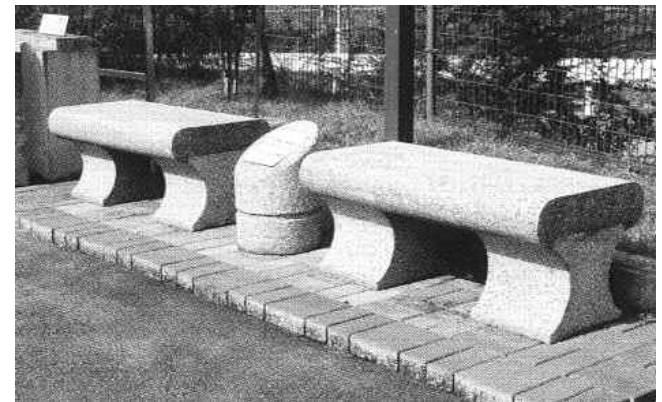
◆ エコセメントとは？

⇒ 焼却灰を主原料として製造する新しいタイプのセメント

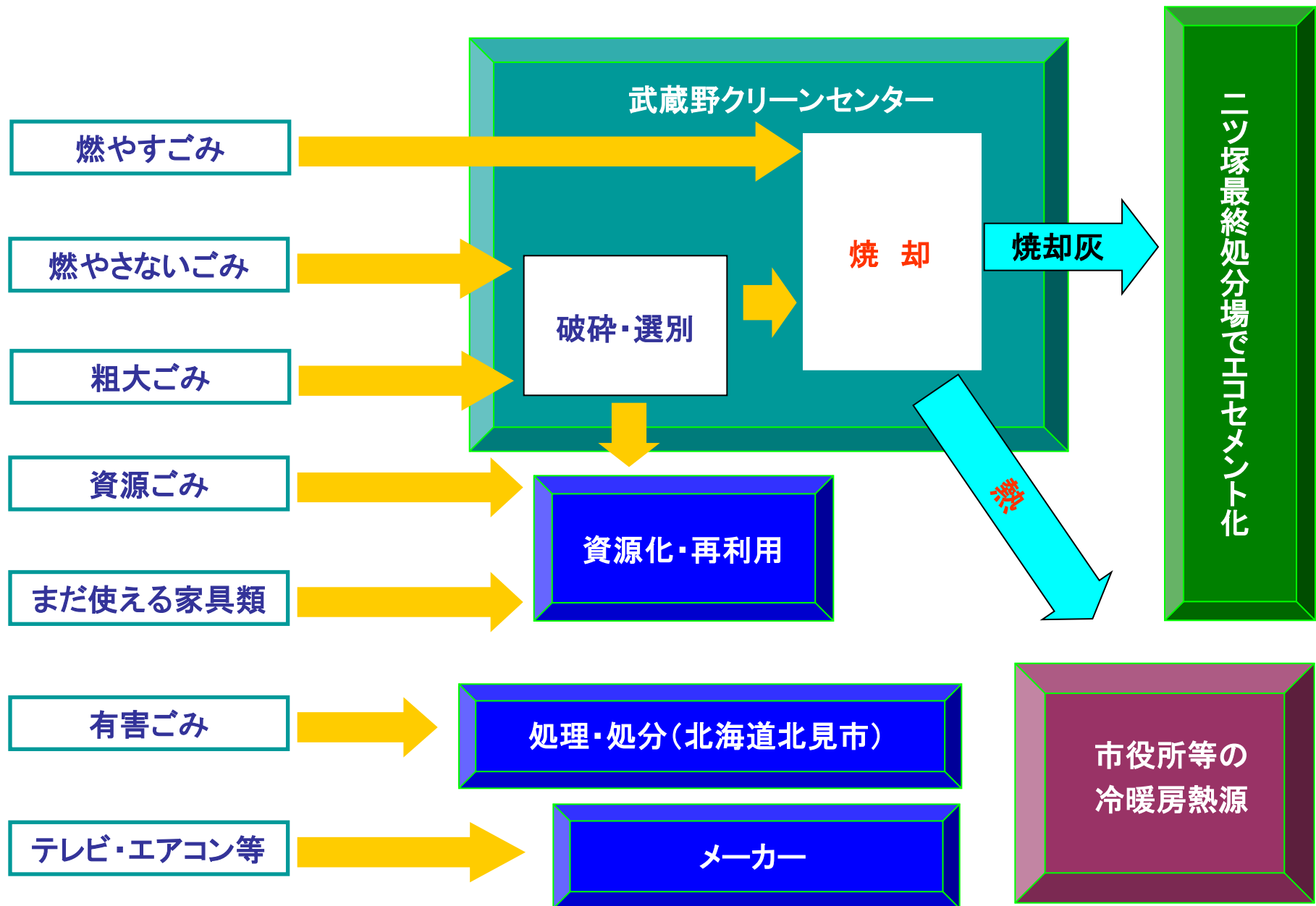
* 焼却灰を埋め立てるのではなく、セメントにしてリサイクル

⇒ 日本工業規格（JIS）に定められ、普通セメントと同等の性質を持つことが実証されており、道路の側溝、縁石、鉄筋コンクリートなど建築工事への利用、ブロック、ベンチなどさまざまな用途に使われている。

* ただし、大変高価な材料になるので、減量を進める必要がある。



■ 武蔵野市から出されるごみのまとめ



■ ごみ処理経費（平成24年度） ■

* 収集・運搬費	13億8791万円
* 中間処理（クリーンセンター運営）費	11億9126万円
* 最終処分費（負担金）	4億 978万円
* 減量・資源化対策費	8761万円
* ごみ処理経費計	30億7656万円
* 処理量	4万7335トン
* キログラムあたりの経費	65円/kg
* 市民一人あたりの経費	2万2177円

※ 本市では、ごみ処理費用の負担の公平化や一人ひとりの意識向上を図るため、平成16年10月より家庭ごみの有料化を行っています。ご理解とご協力をお願い致します。

■ クリーンセンター建替 ■

◆ 略 歴

- ⇒ 昭和59年 クリーンセンター稼動開始
- ⇒ 平成20年 新クリーン施設まちづくり検討委員会発足
- ⇒ 平成25年11月 建設工事開始
- ⇒ 平成29年4月 新クリーンセンター稼動予定
 - * 現クリーンセンターの稼動年数33年
 - * 新クリーンセンター建築費用 = 約100億円

- ◆ 現在焼却しているごみは約32,000t／年だが、新クリーンセンターの稼動までに30,607t／年まで減量する必要がある。

⇒ 毎日学校のプール2杯分程度のごみを燃やし続けている。

- ◆ 市民一人あたり676g／日の排出を600 g／日にする目標を掲げている。



■ ごみ減量をどのように実施するかが課題 ■

- ◆ 本当に市民一人ひとりが継続的に実施できる減量策を実施しないとごみは減らない。
- ◆ 市民や事業者と協力しながら、ごみとごみ処理経費を低減させていく必要がある。

【本市の状況(市民1人あたりに換算)】

- * ごみ収集量(含小規模事業者) = 5位
- * 事業系ごみ = 3位
- * 資源物の収集量 = 4位
- * 持ち込みごみを含む総ごみ量 = 1位

* 市民一人当たりごみ処理経費 = 約22,000円

